

## 2024 年度「社会学 II」学期末レポート課題

### 課題

下記の課題に関してレポートを作成し、提出してください。課題が提出されない場合は単位を認定しないので注意すること。

授業を踏まえて社会学に関連する任意のテーマと問いを設定し、考察しなさい。

レポートの作成にあたっては、関連する研究書（社会学分野の単著の専門書）に必ず1冊以上言及すること。ただし、関連する研究書（社会学分野の単著の専門書）に1冊以上言及すれば、他の参考文献として論文集、入門書や教科書、他分野の専門書などを参照するのは構わない。インターネットの情報は、学術的に十分に信用できるものを除き、引用してはならない。

また、レポートのテーマの選択に際しては、第二学期の授業内容（メディア・社会学の学説史）に関連するもののみならず、第一学期の授業内容（家族・ジェンダー・セクシュアリティ）に関連するものでもよい。しかし、第一学期で執筆したレポートの流用は厳禁とし、流用が発覚した場合は評価の対象としない。

### 評価基準

本課題の採点基準は、以下の3点とする。

- (1)独創性：講義を踏まえて、あなたならではの独自の問いを発展させた考察となっているか。
- (2)論理性：個人的な主観・感想・思い込みではなく、きちんと他者を説得できるような、筋の通った考察がなされているか。事実関係やエビデンスが適切に記述されているか。根拠にしているデータは信頼できるものか。
- (3)形式性：レポートの基本形式が守られているか。問いと結論が明示されているか。結論を導くための論証が適切になされているか。引用している情報・データの典拠と参考文献が明示されているか。

### 講評

テーマの設定がうまくできていないレポートが目立った。テーマの設定が大きすぎるレポートは、概して良いものにならない。たとえば、「現代日本の就職活動」、「若者と SNS」、「ジェンダー平等を達成するためには」などのテーマは、あまりにも大袈裟である。学術的な考察を展開していくためには、関連するあらゆる事実や膨大なデータを収集し、それらをさまざまな視点や角度から検証することが必要となる。しかし、数十年かけて執筆する大作や著書ならばともかくとして、そうした大きなテーマは通常の授業でのレポートで扱いきれる問題設定ではない。テーマを適切なサイズに限定することが、オリジナリティのある良いレポートを書くための基本である。

ひとつのコツは、専門的に探究していきたいテーマを「ふたつ」もつことである。たとえば、もしあなたが「現代日本の就職活動」とは別に、「トランスジェンダーの人権」にも強い関心があるとしよう。ならば、このふたつの領域が重なるところで、自身がより深く探究したいテーマを見定めることはできないだろうか。いずれにせよ、あなたならではの問題意識に即して、テーマを適切な大きさ、十分に扱える大きさに絞り込む工夫をしてもらいたい。